



1 ゆきだるまプロジェクト

1月31日(土)、西野・平和及び福井野小(ニ)児童会館の子ども達40人がゆきだるま(耳つきの雪だるま)プロジェクトのため、昭和会館駐車場に集まった。

幸い天候にも恵まれ、子どもたちはバケツの水をかけて雪を固めたり、マーカーでゆきだるまの顔を書いたりしながら、楽しそうに大小様々なゆきだるまの制作に励んだ。

お昼には、遠藤和子さんをはじめとするサロンたんぼぼの世話役7名の方々が朝早くから腕によりをかけて作った豚汁とお握りが振舞われ、美味しさのあまり、豚汁4杯を平らげた男の子もいた。

なお、大雪像やステージ等の事前準備や当日の進行管理には太田会長をはじめ青少年育成委員会にサポートいただいた。



※ゆきだるまプロジェクトでは、「雪に親しもう!」の象徴として耳のある雪だるま「ゆきだるま」づくりを広げている。

2 広島線バス運休

1月9日（金）、JRバス西野中洲橋線（通称広島線）が、前日の暴風雪のためにバスと乗用車がすれ違うことが困難となり10時から17時まで運休した。

当日の始発バスは道路幅が狭いために、中洲橋から地下鉄発寒南駅まで2時間かかる状態であった。

その後も、正常に運行できる状態ではなかったため、各バス停に運休のお知らせを張り出すとともに、道路の片側ずつの除雪が実施され、当日の運行再開に至ったものである。



3 介護バス救出作戦

今冬は多雪である。1月23日現在で西区の積雪は106センチと過去5年平均を31センチも上回っている。

それにも拘わらず、寒暖の日々が交互にくるため、雪は凍ったり、溶けたりで路面はグシャグシャ。

そんな中、1月17日（土）の夕方、西野9条5丁目で某介護デイサービス送迎用のバスが雪にはまって動けなくなるというアクシデントが起きた。乗客は7人。

埋まったのがバスのため、普通乗用車のけん引では、馬力不足で抜け出せない。

この連絡を受けた水戸町内会会長は119番、110番したが、「消防車にはけん引機能がない」、「交通事故ではない」などから出動は不可。

困り果てていたところ、町内で除雪車を持っている方から除雪車を借りること



ができ、さらに（大型特殊？）免許を持っている近所の男性に運転してもらいバスを引き上げることができた。

作業工程中、けん引ロープの取付け自体がかなりの難作業なのであるが、これまた幸便にも近所に在住している自動車整備士経験のある主婦の活躍により、バスの牽引具を取り出し、除雪車とロープでつなぐことができた。

このバスが動くまでの間、乗客特に女性にはトイレの問題が深刻であったが、相談したところ事故現場近くのお宅が快くトイレを開放していただけたということもあった。

雪に伴う散々なトラブルではあったが、結果的に、ご近所には、優しい方あるいは多才な人材や資源（除雪車）までが揃っていることを実感できる出来事でもあった。

（水戸会長原稿をもとにした記事）

4 優良農業者表彰

西区小別沢の漆崎智さん（71歳）が14年度の優良農業者として、20日、上田市長から表彰状などを受け取った。

漆崎さんは小松菜やしろ菜等を生産。栽培技術の向上等、積極的な取り組みを行い、地域農業のリーダー的存在として札幌の農業を支えてきた。

同氏は札幌市農業委員会の副会長を務めている。



5 さっぽろこども環境コンテスト

今年度で7回目のさっぽろこども環境コンテスト児童会館の部で西区児童会館が最優秀賞を受賞し、1月21日(水)、上田市長に環境問題への取組みを報告した。

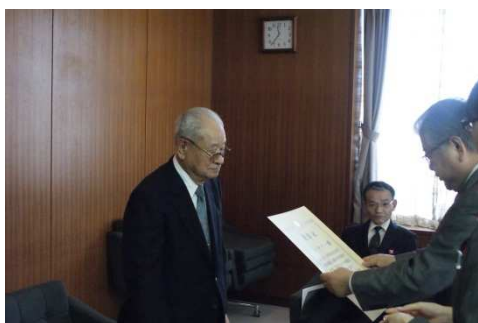
西区の児童会館は合同行事として、琴似発寒川において「源流探し探検活動と川遊び体験」などの活動を行ったのが評価されたものである。

この事業は東(西野)児童会館館長が区内の児童会館に呼びかけて行われたものであり、報告会には東(西野)、牧(平和)館長も出席した。



6 統計調査員札幌市長表彰

1月30日(金)に市役所市長会議室において、統計調査員市長表彰の表彰式が行われ、西野地区からは川中只一さんが受賞され、上田市長から直接表彰状が授与された。



7 北海道文芸賞受賞

月刊誌クオリティはこれまで40年間「北海道文学賞」を主催し、第7回受賞者の藤堂志津子さんは後に直木賞受賞作家となった。

この度、同社は小説の他、短歌、エッセイなどのジャンルも対象とした「北海道文芸賞」を創設。

記念すべき第1回の受賞作品として、小説部門で応募した人見春男(66歳)さんの「音の目撃者」が佳作として選ばれた。

ちなみに人見さんは平成24年から西野地区の統計調査員を務めている。

人見さんの作品はクオリティ3月号から一年間にわたって連載されるので、興味のある方は是非ご覧いただきたい。



8 福祉懇談会(第1回)開催

福祉懇談会は、地域の福祉に関わる実態や悩みを話し合う目的で、今年1年をかけて西野・昭和両連町傘下の単町単位での開催が予定されている(開催日時は各単町からの希望による)。

その第1回目として、1月28日(水)に西野第一会館において、西野第一町内会の会長、副会長、福祉部長、区保健福祉課職員、地区社協職員、第二包括支援センター職員などの参加により開催された。

地域からは、容易に地域とつながりをもとめない住民の見守りの一環として、高齢者宅にバス時刻表を年2回作成・配布して、コミュニケーションを保つ手法として活用しているという事例が報告されるとともに、福祉除雪の運用や個人情報の取扱いの難しさについて課題があるとの指摘があった。

9 西野連合町内会福祉部研修会開催

1月29日(木)、昭和会館において、清田区社協の山下事務局次長から、清田区の北野、平岡地区の見守り活動等について報告があった。

年に一回、高齢者宅にお弁当を届ける配食サービスでは、300食分のお弁当を手作り。その際、近隣の中学生が手伝うと共に、高齢者宅にも福まち推進員とともに同行訪問をすることで、若い人の訪問が大変好評であるとのこと。

さらに、お弁当には近隣の小学生のメッセージが同封されており、配食の喜びを倍加させる効果がある旨の話があり、会場からは、高齢者にも子どもの健全育成にも大変有効な事業であると感心する声があった。

また、当日、参加者席で傍聴していた北区社協の山崎職員のハプニング的自我介绍があり、平和に在住していることや西野地区ソフトボール大会で活躍してきたこと、そして地域に社会貢献したいという決意表明に参加者から盛んに拍手を浴びていた。

実は、大下次長と山崎さんは大学の先輩後輩の間柄である。

10 タイ料理講習会

1月16日(金)、小学生13人が参加する「とことん知りタイ」が、西野児童会館において開催された。

昨年3月までの3年間、タイの日本人



学校(生徒数3千人)で養護教諭をしていた倉持さんが、同年11月から西野児童会館で勤務していることをきっかけにして、タイにちなんだ行事が企画されたものである。

当日、子どもたちは、タイを紹介するスライドを鑑賞したり、体育館でタイの遊び「ティー」を体験した後、タイ風焼きそば「バッタイ」づくりにチャレンジ。楽しくて美味しい一日を過ごしていた。

編集後記

年が明けてあっという間に2月になってしまいました。

この間、地域では目まぐるしく色々なことがあったような気がします。

今回、ちょっとそれらを記事にしてみました。

世間では暗いニュースがあふれる中、少しでも楽しく読んでいただけるか、あるいは、「へえー、西野ではこんなことがあったんだ」と思っていただけであれば幸いです。

二号以降も随時発行したいと思っておりますが、記事のネタがなければ何も始まりません。

「こんなことあったよ。」というような情報をまちセンにお寄せいただければと思っております。

まちセンニュースに関するご意見や感想、情報をお待ちしております。

西野まちセン 秋川

